支　援　事　例

教育的支援を必要とする児童生徒への支援事例

１　事例１

生徒Ａは，「周りの状況が見えていない行動」「周りに合わせられない行動」をとったり，「場にそぐわない発言」をしてしまったりすることが多い。生徒Ａへの効果的な支援や指導は，どのようにすればよいか。

○　「周りの状況が見えていない行動」「周りに合わせられない行動」をとる場合

→　教師と生徒Ａとの根気比べになるところがある。

周囲の状況が見えていない（理解できていない）ので，物事をスムーズに進めていくために「方法（具体的なやり方），順序」を根気よく理解させることが大切である。

また，生徒Ａの行動が，他の生徒の立場からどのように見えているのかを考えさせてみることも大切である。その際、生徒Ａの「得意なこと」や「興味のあること」などを話題にしながら，そこをきっかけとしながら話してみるとよい。

生徒Ａは様々な行動等をとっていると思われるが，まずはその中で，特に「気になる行動」に焦点を絞って取り組む必要がある。そして，その取り組んだことを記録しておき，１年後にどのような変容が表れたかを比較してみることも大切である。

○　「場にそぐわない発言」をした場合

→　全教科共通した発表のルールを作ってみるのも一つの方法である。また，発言したことについて，それが今必要かどうか本人に考えさせることは常に大切にしたいところである。

２　事例２

生徒Ｂは，ADHD の診断を受けている。生徒Ｂ自身，学力に不安を感じており，苦手な教科に対しては，集中力が続かない。

生徒Ｂへの効果的な指導方法は，どうすればよいか。

○　「苦手な教科に対して，集中力が続かない。」

→　まずは，生徒Ａに興味のあるものを基に学習が始められないかを考えていく必要がある。

次に，学習の進め方のパターンを作り，見通しを持たせることも大切である。

長い時間座って，教師の話を聞いて，ノートに写すだけの授業では，なかなか集中力を持続させるのは難しい。時には，プリントの配布や，何か道具等を取りに行かせるなど，教師が意図的に，学習時間に変化を持たせるのも一つの方法である。

さらに，タイミングをとらえて「褒める」ことで，自信を持たせたり意欲を高めたりすることについて，常に教師が意識しておいてほしい。

３　事例３

生徒Ｃは，こだわりが強く，思うようにいかないと動けなくなってしまうことがある。生徒Ｃが，「思うようにいかず、動けなくなってしまっている状態」での効果的な接し方や支援方法はどうあればよいか。

○　「こだわりが強く，思うようにいかないと動けなくなって（固まって）しまう。」

→　こだわりの程度にもよるが，そのこだわりの意味するところを探るとともに，今あるこだわりをうまく利用して，他の活動につなげていくことも一つの方法である。

また，指示の出し方や見通しの持たせ方にも分かりやすい工夫を行う必要がある。選択肢をいくつか作って生徒Ｃが選んだり，生徒Ｃに注目させてから次の学習に進んだりするなどの工夫も考えてみるとよい。その際、視覚的にも分かりやすくする工夫があるとよい。

さらに，「できない→恥をかく→プライドが傷つく」といったマイナスの見通しを持たないように，教師が生徒のその時々の思いに配慮しながら接することが必要である。

４　事例４

児童Ｄは，授業中，常に落ち着かず，友達に話しかけたり手遊びをしたりと注意散漫な状態が続く。児童Ｄに対して，どのような指導を行っていけばよいか。

○　「注意散漫な状態が続いている」

→　まずは，なぜ注意散漫な状態が続いているのか，その背景を考える必要がある。

背景の一つに教室環境が関係していることもある。特に，教室の前面の設営は，児童の集中力を妨げることがあるので，できる限りすっきりさせることが必要である。常に児童の目線に立った設営を行うように意識してほしい。

また，一単位時間の活動を板書するなどして，学習に見通しが持てるような教科学習の板書や設営に心掛けることも大切である。

その他，次の点にも留意してほしい。

- 注意することよりも，褒めることを大事にする。
- 「しっかり」「ちゃんと」など抽象的な言葉でなく，望ましい行動について具体的に伝える。
- 板書の苦手な児童には，ワークシートなどを用い，書きやすくなるような工夫をする。
- 学習課題や学習目標は，しっかり明示して，何を学習するのかを明確にする。

周囲の児童生徒への理解啓発を促す理解啓発授業の指導案

理解啓発授業指導略案（１）　小学校（対象学年：２年）

１　題材名　　友達とちがうところ

２　本時の目標

○　一人ひとりの個性やよさには違いがあることに気付くとともに，互いのよさを認めたり，いたわり合ったりしようとする気持ちを持つことができる。

○　特別支援学級やそこで学習している友達のことを正しく理解することができる。

３　指導の実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1「さっちゃんのまほうのて」を聞いて，本時の学習について考える。 ・　よいと思うこと，そうでないことを考え，学習のめあてを考える。 2　学習のめあてを確かめる。(一緒に読む) 友達とちがうところを見つけ，みんなとなかよくなれるようにしよう。	8分 2分	・　絵本，掲示物の活用 ・　めあての掲示
展開	3　めあてについて考え，話し合う。 (1)　自分の友達にはだれがいるか考える。 ・　自分の周囲にはたくさんの友達がいることに気付く。 (2)　友達と似ているところ・同じところはどこか，また友達と違うところはどこか，話し合う。 ・　見かけのことや好きなこと，得意なことなど語る。 (3)　自分たちの学級と「ひまわり」「たんぽぽ」学級等との違いについて考える。 ・　なかまの違い，人数の違い等に気付く。 ○　なぜ特別支援学級があるのか話を聞く。 ・　自分の速さで学習した方が分かりやすい人，自分なりの学習が必要な人，たくさんの人の中だと話をしたり聞いたりすることがうまくいかず心配な人，などが安心して学校生活を送る場であることを知る。 4　めあてについて分かったことをまとめる。 ・　一人一人違いがあり，それがよさであることに気付き，みんなが大切な存在であることを理解する。 ・　特別支援学級は困り感のある子供に寄り添い，安心して学校生活が送れるようにする場であることを理解する。	5分 5分 5分 10分	・　学校生活へ焦点化するために友達について考えさせる。 ・　違いはおかしいことではなく，個性でありすばらしいことであることに気付かせる。 ※　乙武さんと星野さんの事例の紹介 ・　構成が多学年であったり，少人数であることなど，他学級との違いを理解させる。 ・　個性に応じた学習の場であることを理解させる。 ・　まとめの掲示
終末	5　これから友達と接するときに大切なことは何かを考え，話し合う。 ・　自分との違いが友達のよさであることを理解し，相手のことを分かろうとする気持ちや優しさが大切であることに気付く。 ・　特別支援学級に通っている友達との接し方についても取り上げる。 6　学習のまとめと反省をする。	5分 5分	・　絵 ・　学校生活の具体的な場面を想起させ，ソーシャルスキルを取り入れ，実践へとつなげる。 ・　学習しての感想等を発表させる。

４　本時の評価

○　一人ひとりの個性やよさには違いがあることに気付くことができたか。

○　互いのよさを認めたり，いたわり合ったりしようとする気持ちを持つことができたか。

○　特別支援学級やそこで学習している友達のことを正しく理解することができたか。

【子供の感想】自分とだれかの同じところや違うところをさがしました。私は、一人一人の違うところがいいなと思いました。

理解啓発授業指導略案（２）　小学校（対象学年：３年）

１　題材名　「はったつしょうがい」のある友達のこと

２　本時の目標

○　発達障害の特性を知り，どんなことが難しく，どんなことに困っているのかを考えることができる。

○　発達障害のある友達とともに生活するときの接し方について考えることができる。

３　指導の実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	１　自分が得意なこと，苦手なことについて考える。	３分	・　障害を個性ととらえる視点をもたせるため，まず自分のことを考えさせる。
	２　「障害」という言葉について知っていることを話し合う。 ・　「障害」とはどういうものか ・　「障害」とそうでないのとの違い	５分	・　「障害」という言葉の定義を発達段階に応じてとらえさせるようにする。また，自分の苦手なことと，障害のある状態との間の関連性についてもとらえさせる。
	３　話し合った「障害」以外に，○○小で少し不思議な人だな，と感じる友達のことを話し合う。	３分	・　具体的な場面を提示するなどして，○○小学校で共に生活をしている「発達障害」のある友達への気付きを引き出すようにする。
	４　見ただけでは分かりにくい障害について考える学習であることを聞き，めあてを確かめる。 みんなとちがう苦手さをもっている友達のことを知って，もっと仲よくなろう。	１分	・　少し違った苦手さをもつ友達の中には，家や学校での生活が不便で困っている人もいること，そんな友達に，どのように接したらよいのか考えていく学習であることを伝える。
展開	５　「発達障害」のある友達とどう接したらよいと思うか事例ごとに話し合い，発表する。	10分	・　学校生活の中で起こるトラブルに対して，自分たちはどのようにしたらよいと思うか，グループ内で互いの考えを話し合わせる。
	６　あおぞら２組の先生から，「発達障害」のある友達の生活や思いについて話を聞く。	10分	・　自分と同じように生活していること，気もちの表現の仕方の違い，学校生活で困っていることなどを考えさせる。
	７　聞いた話をもとに，「発達障害」のある友達との接し方をいくつかの場面ごとに考える。	５分	・　一緒に生活する友達として，自分ができることを場面ごとに具体的に考えさせる。
終末	８　本時の学習で，初めて知ったこと，分かったことをを発表する。	３分	・　新しく知った事実があること，よりよい接し方を自分なりに考えたことを取り上げて認めていく。
	９　学習の感想をまとめる。	５分	・　ワークシートにまとめさせ，机間巡視をして自分なりの考えを書けている感想を拾い上げ，最後に紹介する。

４　本時の評価

○　発達障害の特性を知り，どんなことが難しく，どんなことに困っているのかを考えることができたか。

○　発達障害のある友達とともに生活するときの接し方について考えることができたか。

【子供の感想】人は一人一人、生まれながらにちがっているんだなあと思いました。みんな、ちがうけど，いっしょうけんめい生きているということが分かって良かったです。ぼくも、友達を大切にしながら，負けないよう生活していきたいです。

理解啓発授業指導略案（３）　小学校（対象学年：３年）

１　題材名　　「しょうがい」ってなんだろう

２　本時の目標
○　発達障害のある人の特性を知り，どんなことに困っていることを考えることができる。
○　みんなが気持ちよく生活するために気をつけたらよいことを考えることができる。

３　指導の実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	１　自分が得意なこと，苦手なことについて考える。	５分	・　障害を個性ととらえる視点をもたせるため，まずは自分のことを振り返って考えさせる。ワークシートで選択肢を用意して幅広くとらえさせる。
	２　「障害」という言葉について知っていることを話し合う。 ・　「障害」とはどういうものか ・　「障害」とそうでないのとの違い	５分	・　「障害」という言葉の定義を発達段階に応じてとらえさせるようにする。また，自分の苦手なことと，障害のある状態との間の関連性についてもとらえさせる。
	３　見ただけでは分かりにくい「障害」について話し合う。 今まで知らなかった「しょうがい」のことを正しく知って自分と友達のことを考えてみよう。	２分	・　児童が挙げた障害（肢体不自由や聴覚障害等）と違い，外見だけでは分からない障害，誤解されやすい障害があることを知らせ，本時の学習課題として意識させる。
展開	４　モノの見え方に難しさがある人の例を体験して考え，どんなときに困るのかを話し合う。	５分	・　文章中の文字がどのように見えるのか画像で例示し，障害の状態をとらえやすくする。また，そのために，学校ではどんな場面で困るのかまで考えさせるようにする。
	５　音の聞こえ方に難しさがある例について，実際に声を聞く体験を通して考え，どんなことが困るのかを話し合う。	５分	・　同時に多くの声を聞く体験をさせ，注意の向け方の難しさを感じさせる。
	６　急に怒って暴れ出したり，人のいやがることを平気で言ったりする人の例とその理由について聞き，自分たちの接し方の注意を話し合う。	５分	・　パニックやおかしな発言には本人なりの理由があること，また，それを助長する周囲の望ましくない接し方にも原因があることを知らせ，できることについて考えさせる。
	７　これらの障害の状態にある友達が困らず，みんなが気持ちよく生活できるようにするために，自分にできることを考えて書き出す。	５分	・　一緒に生活する友達として，自分ができることを具体的に考えやすくするように，いくつかの項目を与えて考えさせる。
終末	８　ある学習障害の子供の実際の事例を聞く。	３分	・　学習障害の子が人知れず苦労をしてがんばっているという実話を話し，学んだことをより身近に感じさせるようにする。
	９　学習の感想をまとめ，発表する。	10分	・　新しく知った事実があること，よりよい接し方を自分なりに考えようとしていることを取り上げて認めていく。

４　本時の評価
○　発達障害のある人の特性を知り，どんなことに困っていることを考えることができたか。
○　みんなが気持ちよく生活するために気をつけたらよいことを考えることができたか。

【子供の感想】今日は、「しょうがい」について今まで気付かなかったことを知ることができて，とてもうれしかったです。しょうがいのある人の難しいことや苦しいことが分かったので，私もまわりの人のことやしょうがいのある人のことを考えて生活していきたいです。

理解啓発授業指導略案（４）　小学校（対象学年：４年）

１　題材名　　みんなちがってみんないい

２　本時の目標

○　一人ひとりの個性やよさには違いがあることに気付くとともに，互いのよさを認めたり，いたわり合ったりしようとする気持ちをもつことの大切さを理解することができる。

３　指導の実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	１　「わたしと小鳥とすずと」を聞いて，本時の学習について考える。 ・　好きな言葉や文を話し合う中で，学習のめあてを意識する。 ２　学習のめあてを確かめる。（一緒に読む） 「みんなちがって，みんないい」ってどういうことなんだろうか。	8分 2分	・　詩を読み，感想を話し合う中で，学習の焦点化を図る。 ・　掲示物の活用 ・　めあての掲示
展開	３　めあての意味について考え，話し合う。 (1)　「みんな」って誰のことか考える。 ・　詩から離れ，周囲の友達や家族など身近な人に気付き，自分以外の全部であることを確認する。 (2)　友達と似ているところ・同じところはどこか，また友達と違うところはどこか，話し合う。 ・　見かけのことや好きなこと，得意なことなど語る。 (3)　自分たちの学級と「ひまわり」「たんぽぽ」学級等との違いについて考える。 ・　なかまの違い，人数の違い等に気付く。 ○　なぜ特別支援学級があるのか話を聞く。 ・　自分の速さで学習した方が分かりやすい人，自分なりの　学習が必要な人，たくさんの人の中だと話をしたり聞いた　りすることがうまくいかず心配な人などが安心して学校生　活を送る場であることを知る。 ・　K児の事情を知り，違いはあってもみな同じであることを受け止める。 ※　母親から生まれたときのことや親の思いを聞く。 ４　めあてについて分かったことをまとめる。 ・　みんな大切な存在であることを理解する。	5分 5分 5分 5分 5分	・　学校生活に目を向かせ，自分を振り返らせていく。 ・　違いはおかしいことではなく，個性であり，その人のよさであることを理解させる。 ・　掲示物 ・　構成が多学年であったり，少人数であることなど，他学級との違いを理解させる。 ・　個（個性）に応じた学習の場であることを理解させる。 ・　事情については具体的に話しておく。 ※　乙武さん，星野さんの話 ・　まとめの掲示
終末	５　これから友達と接するときに大切なことは何かを考え，話し合う。 ・　自分との違いが友達のよさであることを分からせ，相手のことを分かろうという気持ちややさしさが大切であることに気付かせる。 ・　K児との接し方についても取り上げておく。 ６　学習のまとめと反省をする。	5分 5分	・　K児はみんなの中の存在の一人であることを確認し，接する際，気をつけることなどを理解させる。 ・　道徳の副読本「乙ちゃんルール」を紹介する。

４　本時の評価

○　一人ひとりの個性やよさには違いがあることに気付くことができたか。

○　互いのよさを認めたり，いたわり合ったりしようとする気持ちをもつことの大切さを理解することができたか。

【子供の感想】今日の2時間目に道徳がありました。自分とだれかの同じところや違うところをさがしました。私は，一人一人の違うところがいいなと思いました。

その後，Kさんのお母さんからお話を聞きました。Kさんは、お腹にいるときからダウン症という障害を持っていたことを初めて知りました。でも、Kさんは、助け合って，みんなのおかげでいろいろなことができるようになったんだなあと思いました。感動する話でした。

私もだれかの役に立てたらいいなと思っています。本当に『みんなちがって　みんないい』と思います。